

リアルタイム線量測定システムの配置の見直しに関する住民説明会（須賀川市）

議事録

日時：平成30年8月28日（火）19：00～

場所：須賀川市役所4階大会議室

議事

○南山総括調整官 それでは定刻となりましたので、リアルタイム線量測定システムの配置の見直しに関します須賀川市の住民説明会を始めさせていただきます。

私は、司会進行を務めさせていただきます原子力規制庁の南山と申します。

原子力規制庁からの出席者を御紹介させていただきます。まず、武山監視情報課長、滝田補佐、河村専門官、鈴木専門官、伊藤でございます。どうぞよろしく願いいたします。座らせていただきます。

まず会場の皆様には、お忙しい中、またお足元の悪いところ御参加いただきまして、誠にありがとうございます。また、須賀川市役所の皆様にも大変御協力いただきまして、ありがとうございます。

最初に、説明会の進め方につきまして、御案内申し上げます。

最初に、規制庁の武山課長のほうからお手元の資料と正面のプロジェクターを用いて説明をさせていただきます。説明の後、住民の皆様から御意見、御質問を頂戴いたします。

なお、会場の制約等がございまして、説明会の終了時刻は20時45分までということになってございますので、あらかじめ御承知おきいただきたいと思っております。

それから、発言は手を挙げていただきまして、マイクを使って簡潔にお願いいたします。特に説明側も心がけていただきたいのは、須賀川市でございますので、回答できれば3分以内ということで努めていただきたいと思っております。

この説明会の模様につきましては、原子力規制庁で映像・音声を記録し、後日、原子力規制委員会のホームページに掲載させていただきますので、あらかじめ御承知おきいただきたいと思っております。よろしゅうございますでしょうか。

それでは、原子力規制庁、武山課長から説明をお願いいたします。

○武山監視情報課長 須賀川市の皆さん、こんばんは。私、原子力規制庁監視情報課長の武山松次と申します。

まず説明に先立って、原子力規制委員会という組織がどういうところなのかということについて、簡単に御説明させていただきたいと思います。

原子力規制委員会は、平成23年3月11日の東日本大震災、それによる福島原子力発電所事故、これを教訓として、このような事故を二度と起こさないということで、それまでの原子力規制組織を改組して新しく平成24年9月にできた行政組織でございます。

5人の学識経験者から成る委員がおりまして、それで原子力規制委員会というのをつくっておりますけれども、その事務局として原子力規制庁という職員がおります。約1,000人ぐらいいる形になっています。

我々の原子力規制委員会、原子力規制庁の主な仕事、これについてはまず原子力発電所とか、そういう原子力施設、そういったものの審査、検査というものを行って、原子力の活動を規制をしていくということが一つあります。それから何か事が起きたとき、原子力事故が起きたとき、これについて対応するというのでございまして、原子力施設の事故の収束、あるいは放射性物質が出るに当たっての、出て防護措置をするということについての指示をしたりということを行うということでございます。

それから我々監視情報課、これは原子力規制庁の中の一組織でございますけれども、こちらは中でも放射線の監視をしているところでございます。福島に限らず、日本全国モニタリングポストでございます。そういったものについて監視をしているというところでございまして、そのような組織になっているということでございます。

それでは、御説明をさせていただきますけれども、まず3ページ目、お開きいただければと思います。

「はじめに」というのがございます。今回の説明会、これについてのスタンスなんですけれども、福島第一原子力発電所の事故が起きて、数多くのモニタリングポストを設置しました。その当時から比べてだんだん今、放射線の量はだいぶ低くなって推移してきているところでございます。このような状況がまずあるということが一つ。

それから、行政上の課題としてモニタリングポスト、ずっとつけているわけですがけれども、当然ながら設備の更新をしたりということが必要になってくる時期が来るということとか、あるいはそれを維持するための費用、そういったものも必要になってくるということでございます。

我々、放射線量が下がってきているという状況を考えたときに、モニタリングポストの配置がこのままでいいかどうかということについて、今検討しているところでございませ

て、今日一つの御提案を説明させていただきますけれども、それについて住民の皆様がどのようにお考えになるか、またどのようにお感じになるかということについて、率直な御意見をいただくということが、今日の趣旨でございます。

それから、次のページをお開きください。福島県の中の放射線監視体制ということでございます。これは大体大きくは四つ種類がございまして、これはモニタリングポストでございますけれども、全体的にはこのような配置になっているということでございまして、赤いポツ、これはリアルタイム線量測定システムということで、学校とか幼稚園とか保育園とか、子どもの施設に設置をして、そこの放射線量を把握するというで設置しているものでございます。これが大体2,900台余りあるということでございます。

それから、緑色のポツは、これも福島県内全域にわたってありますけれども、これは可搬型モニタリングポストと言われているもので、570台余りあります。こちらは福島県内の放射線量を中長期的に監視をしていくというものでございます。可搬型モニタリングポストと言われて、「可搬型」と書いてありますけれども、もともとはポータブルなものでございます。これを設置をして、そこでもって固定して監視をしているというものがあります。

それから、青い四角で水準ポスト12台ございます。これは先ほど私のほうで全国の放射線のレベルを監視していると申しましたけれども、全国に水準ポストというのがあります。これは約300台ほどあるんですけれども、それらをいわゆる全国の水準を比較するというために設置しているものが、この水準ポストと言われているものです。

それからもう一つ三角で監視ポストというのが39台ありますけれども、こちらは福島で言うと、福島第一、第二原発、ここの周辺に大体約30km圏内にありますけれども、そこに原発を監視するためのポストとしてつけていると、こういうものでございます。

次のページを開いていただければと思います。須賀川市にあるモニタリングポストということで、先ほど申しました子どもが活動する施設の線量の把握をするためのモニタリングポスト、これがリアルタイム線量測定システムというポストでございまして、これが左側にある絵になります。このようなものが今107台、こちらの須賀川市のほうにはございます。

ここに測定範囲としてBGとここに書いてございますけれども、これは自然放射線レベルを指していて、大体0.1 μ Sv/hぐらいから99.99 μ Sv/hというところまで測定表示ができるというものでございます。それから、赤い表示がついているわけですが、これにつ

いては午前7時から午後7時まで、電光表示がついているという形になっているところがございます。

それから、もう一つ右側にあります可搬型のモニタリングポスト、これはこのような2種類のもがございますが、全部で11台、この市にはついているということでございます。こちら同じようにBGと書いてあって、10万 μ Gy/hと、ちょっと単位が違うんですけども、そういう表示、測定範囲になっておりますけれども、このGyと書いてあるグレイというのは、空気吸収線量という物理的な測定量なんですけれども、これは空気に吸収されるエネルギーの量というものでございます。

先ほど、私のほうでリアルタイム線量測定システム、左側のSvという単位を申し上げましたけれども、こちらはこのGyに対して人への影響というものを勘案して、ある換算をして数値化したものがSvというものでございます。ほぼ大体同じような値、このGyの数字とSvの数字は、大体1対1というふうに考えていただいて結構でございますけれども、そのような形でなっていると。

Gyというモニタリングポストに関しては、原発周辺の監視するポストの場合というものと、それも同じような形で測定がされるということでございます。それから、こちらこの可搬型ポストについても、大体、午前7時から午後7時まで電光表示ということでつくことについて、表示がされているというものでございます。

この二つのポストの違いは何かといいますと、リアルタイム線量測定システムの場合には、これは地表に沈着した放射性物質、特にCs、これによる環境の放射線レベルを把握するというのが目的でございまして、いわゆる防災用という位置づけにはしておりませんで、その線量の把握をするというものでございます。特に自然の放射線の影響が無視できないようなところ、もともと自然放射線があつて比較的高いようなところ、そういったところは精度がばらついたりするということはございますけれども、基本、Csの影響を見るということで設置をしているというものだとお考えいただければと思います。

それから、可搬型モニタリングポストですけれども、右側です。こちらは先ほど原発の監視用と大体同じようなものだというふうに申し上げましたけれども、こちらはいわゆる緊急事態とか、そういったものにも使えるような、Cs以外のどのような核種であろうと、放射性物質であろうと、それに応じて正確に測定がされるというものでございまして、予期せぬ放射線放射能による影響を見るということにすぐれているというものでございます。それから、この須賀川市にはないですけれども、先ほど私の申し上げた水準ポスト、監視

ポスト、こういったものがまたほかの地区にはございますということでございます。

それから、次のページです。グラフがございます。これはリアルタイム線量測定システム108台と書いてありますが、今107台になっていまして、実は1台市のほうからの御依頼でもって撤去したのがあります。それで今、南相馬のほうの環境創造センターのほうに保管しているものがございますけども、それを含めて、2012年の4月から今年の3月までの平均を示しているものでございます。

これは108台を全部トータルして平均化したものでございます。その空間線量率の平均値が推移としてある。それで青い帯でございますけれども、これはいわゆる福島第一事故、この事故以前からいわゆる水準ポストというものが47都道府県に必ず1基あったわけです。その1基の17年間の平均値、測定値の1日の平均値、その範囲を示しております。一番低いところでは青森県で0.01、それから最大で山口県で0.115というレベルですけれども、その帯を示しているものでございます。須賀川市についてもこの0.1というレベルに今なっているということでございます。

それから、次のスライドですけれども、こちらは今現在百七つあると申し上げましたけれども、その百七つの昨年4月から今年の3月の1個1個のリアルタイム線量測定システムの平均値、その分布がどうなっているかということでございまして、横軸がこれは空間線量率になっていまして、例えば一番左側にあるやつで2というのがございますが、これが0.06～0.07 μ Sv/hの間にあるものが2個ありましたという見方になります。こう見ていただくと、0.17とか0.18の間にあるものが3個あるということで、ここが今一番高いところという形の分布になっているということでございます。

それから、次のスライドです。これまではモニタリングポストの数値がどうなっているかというのを御説明させていただきましたけれども、福島第一原発の現状ということでございます。これは今の現状ということで、これからいろいろ廃炉作業も進んでくるので、それにまた応じて変わってくると思いますけれども、現状、まず原子炉建屋からガス状の放射性物質というのが放出されております。その原発の敷地の境界で被ばく線量というのを評価をすると、1年間ですけれども、これは1万分の5mSvというレベルに今落ちついている状況になっているということでございます。

それから、もう一つはがれき撤去です。がれき撤去、今作業をいろいろしているわけですが、原発の敷地境界で大気中の放射性物質濃度というのを測定しておりますけれども、これも法令の基準以下となっています。法令基準というのは例えばCs134であれば、

1m³当たり20Bq程度という値になりますけれども、そういうもの以下ということで、これは通常原発周辺の基準と同じですけれども、それ以下になっているということでございます。

それから、次の9ページです。それから、須賀川市さんの場合、除染がされて今除去土壌というものが仮置場に置かれています。また一般住宅などの現場保管という形でされております。須賀川市さんの場合には仮置場が74カ所ある。そこで土壌が大体4万9,400m³ぐらいありますとか、あるいは一般住宅等の現場保管、ここも13万カ所ぐらいあると聞いております。保管量は700万m³ぐらいということで、まだ非常に多い数字が残っていると聞いております。

こういう仮置場、またこの仮置場では、当然リアルタイム線量測定システムではなくて、実はサーベイメーターで月2回程度、測定が市のほうで行われていると聞いております。そのような形で、いわゆるモニタリングポストとは別に、そういうサーベイメーターでもって測定をしているという現状になっているということを御紹介させていただければと思います。

それから、次のページ、先ほどのページは保管状況ということで、保管においてサーベイメーターで月2回程度測定をされているということなんですけれども、こちら、これから中間貯蔵施設などに持っていくということですので、これは実はまだまだ須賀川市さんの場合には、これからのところもあると聞いております。特に今、学校などの除去土壌については、優先して今年度搬出完了する予定と聞いておりますけれども、その搬出するに当たってのモニタリングということでございます。中間貯蔵施設に持っていく輸送ルート、ここは国、環境省ですけれども、そちらのほうでモニタリングをするということになっているというふうに聞いております。いわゆる運搬に際しては別途そういうモニタリングというものをを行うということで聞いていらっしゃるところでございます。

それから、次のページです。11ページでございますけど、今まで現状こういうふうな状況になっているということをお示したわけですけれども、この見直しについてでございますけれども、こちらの仮に例えばリアルタイム線量測定システムという赤いもの、こういったものを線量が低く安定しているところ、これから撤去をして、それを使えるものであれば、こちらの浜通りのほうの線量が高いところに有効活用するというようなことも考えているわけですけれども、低いところについてなくしたとしたときに、維持するものとして可搬型モニタリングポスト、水準ポスト、監視ポストとございますけれども、この緑

のポツ、特に緑のポツについて可搬型ポストに関しては一応県全域に配置している状況になっていて、これをもって今後、中長期的に放射線の監視を、これを中心にしていくというふうなことを今考えているところでございます。これをもって何かもし原発であったとしても、残るポストでもって対応ができるのではないかというふうに考えているところでございます。

それから、次のページですけれども、モニタリングポストに関しては、その場所が固定されているということもございますので、どうしても連続的にとといいますか、面的、連続的にということはなかなか難しいんですけれども、それを補完するという意味で、サーベイメーター、特にこういうハンディなものが今あります。これは今、須賀川市さんのほうに一応160台ほど我々のほうからお貸しをされていて、須賀川市さんのほうで市民の方がお借りすることができるという形になっていると思いますけれども、気になる場所があれば、そのときにちょっと借りて測定をするということで、モニタリングポストがないところについては、こういうようなものを使って確認をしていくということも必要かなということでございます。

それから、次のページでございます。13ページですけれども、今日御説明を一応させていただいて、これから御意見をいろいろ伺いするわけですけれども、時間もどうしても庁舎の管理上20時45分までというふうに聞いておりますので、なかなかこの場で思いつかなかった、あとで振り返ってみたらこういう意見を言いたかったなということもあると思いますので、そういう場合はこちらのフリーダイヤルをうちのほうで設けております。こちらのフリーダイヤル、活用していただいて、こちらのほうに御質問なり意見を言っただけであればというふうに思っているところでございます。

私からの説明は、以上です。

○南山総括調整官 それでは、皆様からの質疑に移りたいと思います。御質問、御意見がある方は挙手をお願いいたします。では、一番前の方。

○参加者 私は地元の須賀川の市議会議員をしております丸本由美子と申します。今日は最初に議会での取組について、お話をさせていただきたいと思っております。

去る6月議会におきまして、座ったほうがいいですか、大丈夫ですか。

○南山総括調整官 どうぞお座りください。

○参加者 座っていいですか。6月議会におきまして、四つの団体から放射線監視装置、モニタリングポスト等を撤去しないことを求める請願書が提出されました。須賀川の市議

会では委員会での調査、そして審査、さらには本会議での審査結果ということで全会一致でこの請願が採択され、その中身についてはまだまだ私どもの健康への影響が心配される放射線に関して、国・東京電力と住民が情報を共有し、対策を進め、リスク低減に取り組む、リスクコミュニケーションは引き続き重要だということから、モニタリングポストを撤去しないことを求める意見書を出そうと。そのことを議会では全会一致の中で意見書を6月21日最終日をもって提出することが決まりました、その旨提出されております。規制委員会委員長宛に。

こういうことは私ども議会にとっても市民の負託に応えるために議会活動をしている議員が、立場の違いを超えて須賀川市における住民の意見をまとめ上げたということは、重要な結果であろうと思っておりますので、そのことをきちんと受け止めていただきたいと思っています。

それと、私は6月議会におきまして、市の対応についての一般質問を通してお伺いをしました。須賀川市におきましてもこのような状況といたしますのは、結果だけ撤去の見直しをするということを決めての説明会が行われること自体も、やはり不服な思いをしていることなどが調査結果できちんとお示しをいただきました。また、去る8月15日には市民に向けて議会だよりが配布されているんですが、私の質問もこの中で取り上げさせていただき、市民の皆様にも報告をさせていただいているページがございます。

少し紹介をさせていただきますと、リアルタイム線量計の撤去について、須賀川市の現状と今後の取組についてということで説明会が今後予定されているということと、先ほど説明がありました市内の設置状況が答弁として出されました。そのことについて規制委員会でのリアルタイム線量計等の撤去方針の見解を伺うということで答弁を求めました。その際の答えは、日常的に線量を把握する手段が減少することは、住民にとって不安を与えかねないため、国は責任を持って測定を維持継続すべきだと考えている、これが須賀川市の答弁であります。このことを市民の皆様にもお知らせし、そして多くのこれに関わる方々の総合的な意見だということ、まず最初に述べさせていただきます。

○南山総括調整官 ありがとうございます。御意見ということでよろしゅうございますか。

規制庁側、何かコメント等ございますか。

○武山監視情報課長 須賀川市議会からの意見書は、こちらのほうに届いております、読んでおりますので。

今までも我々のほうでほかの住民説明会をやらせていただきましたけれども、ある意味

生活の一部になっているという御意見も結構多々いただいておりますので、いただいた意見を集約して、改めてまた規制委員会で御報告して検討させていただくということになると思います。

○南山総括調整官 よろしいですか。

○参加者 検討して、結果というものはいつ私たちに示されるのでしょうか。今日の市民からの御意見等も説明会で聞いて持ち帰った際、また議会からのお示しした意見書、その中身についてどういった形で提示されてくるのかということについて、一つだけお伺いして終わりたいと思います。

○南山総括調整官 どうですか。

○武山監視情報課長 いつというのはなかなか、今、言えないです。とりあえず今は我々のほうで11月上旬ぐらいまで実は住民説明会というのは予定されておりますので、まずはその住民説明会で住民の意見をお聞きして、それらをまとめてという形になりますので、その以降になるということだけは言えますけども、今どういう時期に、どの時期にということとはなかなか決まっていない状況です。

○参加者 来年度、概算要求の予算はついていきますよね。そのことからすると、来年度のある程度の方針というものが示されないと、次のいろんな取組というのはいけないと思うんですけども、いつかわからないというのは、今のお答えだと明確に示された意思についての答えにはなっていない気がするんですが。

○武山監視情報課長 概算要求は、この間も三春町のほうでも御質問があつて答えたんですけども、結局モニタリングポストはネットワークもありますので、いろいろ維持するお金は当然かかるわけです。これは今後もかかります。たとえ、もし一部撤去したとしてもかかりますので、ある意味、あともう一つはまだ今我々住民説明会でいろいろ意見を聞いているということですので、まだ撤去ありきという予算は今のところ考えていませんし、したがって、現状予算というものを継続していくということ、まず考えているということは、前も言いましたけれども、基本そういうところで今は、概算要求も、もう今月ですので、そういう形で要求はしているつもりですけども、ということでございます。

御質問のとおり、確かに本予算が決まるというところがあったときに、できるだけ精査したものがいいとは思いますが、やはりこの問題はなかなか短期間では解決しがたい問題だと思っておりますので、我々としてはまずそれよりもきちんとして、きちんと整理した上で検討していくことが大事だと思っておりますので、それに応じて予算のほうも対

応していくということにならざるを得ないと考えています。

○南山総括調整官 では、ほかの方、いかがでしょうか。

じゃあ、引き続き前の男性の方。

○参加者 ちょっと質問させていただきます。須賀川住民のマルトと申します。

まず、単純な質問なんですけど、原子力規制委員会とか原子力規制庁ということで、「規制」という言葉がついているんですけど、本来規制というのはルールをつくったり制限させたりということで、原子力を使って、言ってみれば金もうけをしている企業さんの立場を規制していくというお仕事なんだろうというふうに思うんですけど、それとあと規制庁に今1,000人職員さんがいると説明があったんですけど、ちょっとびっくりしました。

福島第一原発が事故を起こしたことによって1,000人の職員さんをそこに付けなきゃいけないなかったという、この実態。これは僕もびっくりしているんですけど、本来であればこういうモニタリングポストというのも、事故を起こしたところが本来つけるべき案件だと思うんです。我々住民は今回の事故によって、いろんな影響、要するに迷惑も被りました。

我が家は事故が起きたときの須賀川市もかなり線量高かったんですけど、うちの雨どいのところは事故当時50mSv以上ありました。孫が生まれる予定だったので、このままではうちで孫は産めないということになって、庭を全部コンクリートで変えました。それは全部自分の個人のお金でやりました。そういう状況のもとで我々はこの須賀川市で今生きてきているんですけども、事故を起こしたところが、「ごめんなさい」という気持ちで皆さんの健康、暮らし、そういったものを今後も見ていきますということで、僕はモニタリングポストはついたと思っていたんです。

ところが、今の説明だと、規制庁がつけたということになると、これ税金でつけたんですか。ということは、原子力規制じゃなくて、原子力を容認しているところがつけたという解釈でよろしいんでしょうか。今後もお金がかかるから、そこのお金の部分を少しでも軽減するために、今回なくしたいというところが実態ということになるのかなというふうに、話を聞いていて、今までの7年半のこの歴史を考えたときに官庁、皆さんのところが今日も別件ですけど、テレビで中央省庁が頭を下げている場面が多々ありましたけれども、「ごめんなさい」ということで謝れば済む話でもない。だけど、物をつくるということは更地に戻せばゼロに戻ればそれはいいんです。原子力だけはもうマイナスなんです。これ事故1回起こしたことによって、日本の国土はマイナスになっちゃったんです。そのマイナスを監視していくためのモニタリングポストだと思うんです。

我々住民はその数値を見ながらある程度安心しながらここ7年半生きてきたんです。これからも要するに半減期が何千年という放射線とつき合っていかなきゃいけない。その数字を今もう大丈夫だから、お金かかるから、税金かかるからやめましょうというのは、お門違いな発想で、今、目の前に例えば東京電力の方がいて、ごめんなさい、もうこれ以上お金出せないから何とか排除させてくださいというのならまだ話はわかる。皆さんはどちらかという国民の立場というか、住民の立場に立たれている方々ですよね。その方々が住民の安心安全のよりどころだったモニタリングポストを外したいというのは、ちょっと違うんじゃないのかな。

やはりやっちゃいけないことをやっちゃったんです、7年半前に。原発事故というのは絶対起こしちゃいけなかったんです。それを起こしちゃったんです。それはどこが起こしたのか。東京電力だけじゃないと思います。国がそれを認めてきたわけですから。ということは我々住民にはそれなりの償いを一生かけてでも、企業も国もやっていってもらわないと、1,000人の職員さんがそれで例えば御飯食べているわけですから、それだけの予算を取って人件費もかかっているでしょうし、そういったところも含めてちょっとびっくりしているんですけど、少なからずどれだけの費用がかかるから、この費用をこれだけ軽減したいからと、少なくともまだ数字でも出てくるのならまだわかります。これで皆さんの税金が年間これだけ減るんですということであれば、協力もします。その数字すらもない。それはちょっとあまりにも理不尽だと僕は思います。

須賀川で生きていくと決めた我々が今ここにいるので、その我々の気持ちに対して、中央の方々がどのような判断で、この福島で生きていくためには、皆さんのために我々も、もう最大の協力をします。最大の尽力も出しますということで、何とか今後もおつき合っていたらなというふうに思いますので、数字だけでも、モニタリングポストの数字は嘘を言っていないと思うんですが、あれすら嘘をつかれていたらえらいことですが、あれは嘘を言っていないと僕は信じたい。だから置いておいてほしいという立場で今発言させていただきました。すみません、長くなりました。

○南山総括調整官 いえ、ありがとうございます。

いろいろな話がありましたけども、国が設置したという点とか、原子力を容認したんじゃないかとかいうところまでお願いします。

○武山監視情報課長 経緯を申しますと、これは事故が起きたときはまず学校、幼稚園というところでの線量を把握するというので、これは文部科学省が実は設置をしております。

す。当時、文部科学省のほうで、要するに学校の線量が高いということですので、いろいろ学校の校庭も表土を返したりとかしているいろいろと工夫して、下げたりとかしてはいたんですけれども、やっぱりちゃんと測定をしたほうがいいということで、学校は市町村の協力を得て、市町村と相談しながら設置しましたということでございます。

その後、実は我々が今これを管理しているんですけども、これは先ほど言った全部実は事故が起きたことによって、いわゆる原子力に絡むいろいろな組織がガラポンになってしまっていて、ガラポンしたわけです。要するに、以前の組織だと機能しないということで、新しく国会でもってこういう組織をつくるということには決まったので、それでもって決まって、それじゃあ文部科学省がそれをやっていたこれについてはどうしようかといったときに、放射線測定、放射線の測定をしているということですから、そこをきちんと専門的にやるということが、今度新しくできた組織があるから、そちらのほうに移管したほうがいいんじゃないかということで移管されて、我々のほうで今管理をしているというのが現状でございます。

我々がこの放射線監視をしているというのは、目的はいわゆる本当に緊急事態が起きたときに、一番よりどころになるのはモニタリングポストでございます。これは緊急事態で放射線が出てきたりとかしたときに、放射線のレベルを見て、あるレベルになったときにはこういう措置をしろということが幾つか我々のほうの基準でもって、これ原子力災害対策指針というのがあるんですけども、そちらのほうで決めているわけですけども、そういうものによって避難とか一時移転だとかいうような、そういうことをこちらのほうから指示をするという形でやっているわけです。

だから、もともとモニタリングポストは、実はそういう防災なり、避難、一時移転、こういうものをするときの判断の材料として使っているわけございまして、ちょっと先ほど申しあげましたように、学校とか幼稚園についているものは、全く参考にならないかという、そうじゃないんですけども、もともと目的はそういう目的でついているものではなくて、先ほど私が申しあげました、例えば500何十台もある、一応県全域に置いている可搬型ポストでもございますけれども、これはまさに防災用と同じようなスペックのものなので、我々はどっちかというそちらのほうで、そういう措置の判断をしようということで、もともと整備したものなんです。

それとは別に学校のやつがあって、その学校のやつが先ほど言ったように、線量が大幅低くなっている状況を見ると、もうそろそろ合理的なことができないかなということで、

我々のほうとして考えているということでございまして、実は幾ら予算を削減したいからこうしたいんだということではなくて、本当にもう線量が低く安定しているので、ある意味モニタリングポストの数を、もう少し、今の数じゃなくても、もうちょっと減らしても大丈夫なんじゃないかという、そういうふうな考え方で持って実は出てきています。

だから、先ほど申し上げましたようにモニタリングポスト、どちらにしてもモニタリングポストのネットワークというのは維持しますので、どうしてもお金、その維持費というのは固定費的にずっとかかってくるわけです。だから、そこはほとんどそういうものができていて、だからもし撤去するとすると、撤去費用とかそういうところは一時的ではありますが増えたりするかもしれないというところになるだけ。というぐらいなんです。だから、あまりお金の話がどうのこうのというのは、実はあまり全面的に考えていたわけじゃなくて、もともと線量が低いということをまず根拠にして、僕らとしては整理統合できるかなということを考えていると、こういうことございまして。

○参加者 今言ったように第一原発がもう更地になって、今後一切放射線だとか、そういったものが出てくる要因がないということであれば、それはそれで僕はいいと思います。以後、絶対出ないんだと。だけど、出ないと誰が約束できるんですか。今の本当に中がどうやって燃料棒出そうか、どうやって出していけるのか。まだこれから30年、40年かかるんじゃないかとかと言われてはいますが、そういう搬出をするときに、誰が事故が起きないと言えるんですか。

だから、さっきも言ったんだけど、もうマイナスなんです。あの事故が起きたときから日本はマイナスの領域に入っちゃったんです。だから、原子力を規制するんじゃなくて容認しちゃったんです。容認したからマイナスになっちゃったんです。だから、マイナスになったということを、まず念頭に置いてもらわないと、いかにゼロに近づけるかということで、ゼロにはもう戻らないです。何千年かかっても恐らくゼロには戻りません。

その部分を皆さんが把握してくれないと、じゃあ、何のためにモニタリングポストをつけたのか。それはホットスポットがあるからとかと、あの当時言いましたよね。いろんなところに隠れて高い部分もある、低い部分もある。そこがわからないからといっていっぱいつけてくれたんだと僕は認識していました。だけど、今後一切事故が起きないとは誰も言えないし、あの当時だって東電の会長というか社長も、いやいやわからなかった。わからなかったわけじゃないですよと、もういろいろばれればれになっていたと思いますけど。そういったことがあるんだから、マイナスになっちゃったということを、まずはあなたた

ちも認識していただいて、そのマイナスをいかにゼロに近づけなきゃ孫子の代にこの日本を渡せないんだと、そういう認識のもとで1,000人の職員さんがいるんでしょうから、頑張っていたかかないと、我々ではどうにもならない領域なものですから、そういったことを考えてほしいなと思います。

だから、なくすありきじゃなくて、そうじゃない、あくまでも住民のため、住んでいる人たちのために何をすべきなのか、まずそこだけを考えてもらいたいというふうに思います。

○南山総括調整官 ありがとうございます。よろしいですか。恐縮です、後ろの2番目の方が先ほどから手を挙げています。

○参加者 市内のおダといます。よろしくをお願いします。

3.11による原発事故当時、私東京で働いておまして、あるタワーマンションに住んでいる原発関係者の家族が、政府発表以前に一斉にいなくなってしまったんです。原発事故で大変だという政府発表する以前に、ある原発企業に勤めている家族のほとんどがそのタワーマンションからいなくなってしまったと。これは福島第一原発事故で放射能がまき散らされると、この情報がその電力会社の家族に伝わって、いち早く逃げたんです。マンションの中ではみんな不思議がっていたんですよ、何でいなくなったのかということで、春休みでもあったし。

しかし、福島では飯舘村を始め、何が何だかわからないけれども、国や電力の指示はない、連絡もない。しかし逃げようと、逃げた先が放射線が高い場所だったという実態がありましたよね。ですから、先ほどの方の質問にもありましたが、現在の放射線レベルが低くなったから撤去するんだと、こういうことはモニタリングポストの役割はそうではなくて、今の被害だけでなく、今、第一原発を廃炉していると。プールに核燃料棒が何百本もあるわけです。これが大地震とかあるいはテロとかによってプールから飛び出して、メルトダウンが起きるかもしれないですよ。これ起きないという保障はないですよ。ですから、当時、福島県民や東北、関東にいる人たちが右往左往した状況……、聞こえますか。

○南山総括調整官 ちょっと待ってください。かわりのマイクを持っていきます。

○参加者 今、水をこぼしたから。今後の未来のために原発事故に備えるためにモニタリングポストは必要だというふうな位置づけに規制庁はすべきなんです、国民の命を守るために。

私どもが住んでいる町内でも、あのうちより西側は放射線の汚染度が高いんだよと、こちらは比較的低いんだよと、見直しで14カ所、須賀川で残したいというポストが。そういう大ざっぱな汚染のレベルじゃないんです。細かく汚染の濃淡が風向きによってあるんです。私は長期休暇をいただきまして単身赴任から帰ってきて、翠ヶ丘公園、市役所から測定器を借りてみんな測ったんです、翠ヶ丘公園を。そうしたら風の通り道のところは非常に高いんです。今でも高いんです。でも、モニタリングポストは低いところに設置されるんです、山の一番上に。今でも高い。

だから、今後発生する原発事故——発生しないとは言えないんですから——に備えて私ども住民が、私どもが住んでいるエリアはどうなんだろうということをしるべきように、インフラとしてモニタリングポストは絶対必要不可欠だと。今の政府も原発をやめないと言っていますから、維持するんだ、やっていくんだと、そういう原発の国の日本ですから、モニタリングポストは必要不可欠な装置だと思います。

JRにしる交通機関にしる、例えばプラットホームでは飛び出し事故が起きないようにガードつくっていますよね、山手線とか全部。事故が起きないように徹底して対策やっているんです。事故が起きれば救急車がすぐ来るようなシステムができ上がっているんです。なんで原発事故はそういうシステムから手を引こうとしているんですか。規制庁はその辺を、この資料を見て笑ってしまいましたけれども、レベルが低くなった、低くなった、だから撤去するんだと。こんな、原発はもう事故が起きないんだという、3.11以前の考え方のレベルですよ。また原発事故は起きるんだという前提に立っているんでしょう。なんで撤去するんですか。

モニタリングポストの役割を低くなってきたから、今の放射線の濃度、汚染度合いを調査するんだという役割じゃなくて、今後の原発事故にも備えていくんだというふうな役割に変えるべきだというふうに思っていますが、いかがでしょうか。

○南山総括調整官 ありがとうございます。未来のインフラのために必要という御意見でありがとうございます。何かコメントございますか。

○武山監視情報課長 モニタリングポストは今おっしゃったとおり、事故に備えて放射線レベルをきちんと検知して、避難などを行うというためのものだという事は、それは我々もそう思っております。

我々のほうはそれをいわゆる可搬型モニタリングポストという、緑のポストが書いてあるやつ、あれがむしろそれ用になっているということで考えていて、確かに多ければ多い

ほどいいというお考えだと思うんですね、モニタリングポスト。例えば本当に密にあったほうがいいのではないかと、こういうような御意見もあると思うんですけども、結局どのくらいあればという程度の問題をどこまで考えるかということだと思っていて、モニタリングポストは当然必要だと思っています。

ただ、それを我々のほうは570台余りの可搬型モニタリングポストとか、あるいは原発周辺にある監視ポストとか、そういったところで監視をする、またそれを使って避難、一時移転といったものについて考えていくということのためのものが、それなんですということで、それを維持していきたいというふうに考えておるところでございまして、いわゆる生活環境に密着したポストに関しては、その線量の状況に応じて配置をするというふうな形で考えたらどうかということ、今回の御説明をしたというところでございます。

ただ、これまで皆さん、ほかの住民説明会お聞きして、やはりすごく身近に学校にあるやつは身近なので、そういったものはまだまだ残してほしいという御意見は結構多々あったというふうに思います。ただ、我々は先ほど言ったような役割分担、モニタリングポストの役割分担というものを考えて、このような御提案の御説明をさせていただいたということでございます。

○南山総括調整官 ちょっと追加で。

○参加者 モニタリングポストの役割について、これから予想される原発事故に備えて住民の安全や安心を確保していくんだという立場には立てないんですか。汚染度合いは風向きによって道路一本で違う、あつちは高い、こっちは低いというように、非常に大変だったんです。この前の事故は、ほとんどが太平洋側に放射性物質が行って、少ないのがこっちの内陸に来たんです。風向きがみんなこっちに来たらば、多分、東には全員が住んでいられなかったでしょう。そういうことが起きるんですよ。起きたらモニタリングポストどころじゃないけれども、14カ所ぐらいで市民は安心できるんですか。モニタリングポストの今後の役割と、14カ所で皆さんは安心できるんですよというふうにあなたは言えるのかどうかです。

○南山総括調整官 台数の話で。

○武山監視情報課長 我々、だから特に原発、先ほど申し上げましたけど、須賀川市さん、確かに10台余りという形で今、書いてありますけれども、ほかの地域を含めて原発、いわゆる福島県全域をまず観測網、大体5kmメッシュなり、会津のほうは10kmメッシュぐらいなんですけれども、そういう一応メッシュでもって置いて、それでもって放射性物質の行

方というものを追うということでは、可能なんだろうというふうに考えているところです。それでもって我々は我々のほうで放射性物質のレベルというのがどうなるかということ把握をして、皆さんのほうに一時移転なり避難というものについての措置の避難、指示をするという、そういう今仕組みをつくっているところです。

○参加者 あなたの言っていることがわからないね。

○南山総括調整官 すみません。5kmメッシュという話があつて、それは風で飛んできた場合にキャッチできるのかというところが、できるという。

○武山監視情報課長 そうです。それは、それでできると考えています。

○南山総括調整官 技術的には可能だという。

○武山監視情報課長 技術的には可能です。ただ、先ほど言ったようにポスト、そうは言っても皆さんの中には御自分の近くにあつて、そのポストの値で確認をして、いろいろな行動を起こしたいという人も中にはいらっしゃるというふうに聞いていますので、いろいろな御意見があると思いますけれども、我々はそういうふうな今言ったような考え方をとっているということでございます。

○南山総括調整官 まだいろいろ御意見あろうかと思いますが、一番前の女性の方、お願いします。

○参加者 須賀川市の市議会議員をしております横田と申します。

先ほどから皆さん、生活の安全とか放射線量をきちんと生活圏内で見たい、これからモニタリングポストというのは未来を見るものだというので撤去しないでほしいという意見が出ていますので、規制庁としてはそれに今もありましたが言い訳ではなくて、意見を聞くということで、結果ありきじゃなくて、ここの意見をきちんと聞いていただいて、答えを出すという立場に今立っていただきたいというふうに強く思ったことと、それから、先ほど資料いただいた8ページになりますけれども、原発敷地境界の中で1万分の5mSvということですが、東電が第一原発の廃炉作業の視察を受け入れているんです。行きたいと言えば受け入れているということで、そこに行った方から伺ったんですけど、1号機の前でバスの中でですけど、1,000 μ Svあるということで、バスの右左で全然線量が違うという状況を考えると、ここが出ているのが原発敷地境界ということでは、ここで1万分の5だけれども、これは全然合理的ではないんじゃないのと。1号機のところでそれだけあるということは、毎日出ているということなので、先ほど合理的な数字になったので撤去してもいいんじゃないかとおっしゃいましたけれど、全然、私たちここで住んでいる者に

とっては、合理的な数字でもないということが言えるのではないかというふうに思います。

ですので、皆さんの御意見のように、これから廃炉作業何十年続くかわからないという状況、それから市内の汚染土壌もこれから運び出すという現状を踏まえれば、撤去すべきではないのだろうというふうに私も意見を述べさせていただきます。

○南山総括調整官 ありがとうございます。そこは御意見を真摯に受け止めるということはあると思いますけども、今お話の中で敷地内の1号炉の周りだというお話があったんですけど、規制事務所で立ち入っている河村さん、何か一言。

○河村上席専門官 私、南相馬の福島第一規制事務所でモニタリングのほうを担当しております。

私もそうですけれども、規制事務所には、私のほかにも保安検査官がいて、毎日1Fの中に入っているような確認作業とか検査をやっているんですけども、1Fの周り、確かに高いです。あと3号機の周りも高いところ、ほかにも高いところ何か所かあるんですけども、ただそれは7年前の事故で、そういった放射性物質が環境中に放出されて、それがその近くに落ちてくっついたところは今でもやはり線量は高いんです。なので、それとここに書いてあるガス状物質による被ばく線量が敷地境界で低いですよという話とはまた別だというふうに理解をしておりますけれども。

○南山総括調整官 そのところ、別だというところをもう少し。

○河村専門官 なので、敷地境界から外に出てくるものを我々は観測しているという話です。なので、敷地の中は高いのは事実です。ただ今、現在もその敷地の外に出てきているものは敷地境界のポストとか、ダストサンプラーで監視をしていて、その結果、外のほうに出てきている放射性物質の量だったり、線量といったものは管理をされているという状況であります。

○南山総括調整官 すみません。放射線の地面に張りついているもの。これは爆発でがれきとか、そこにあるものから放射線が出ています。その放射線量の話と、ここに最初に上に書いてありますガス状の放射性物質が空気中を放出されて出ているものがありますと、この今言っているところです。それを被ばく線量に敷地境界のところでダストモニターとか、ダストサンプラーでダストを取って、放射性物質の量から被ばく線量を出した数字というのはこうなっていますということですので、当然そこは違うものということです。なるんですけども。

ただ、線源に近いところのほうは当然強い、放射線も強いし、被ばく量も多いというこ

とは当然おっしゃるとおりだと思います。今後も規制庁としましても、電力に対してきちんとそこら辺の監視は緩めることなく、厳格な規制をしていきたいというふうに思っておりますので、そういった専門的な話が随分出てしまいましたけども。

ほかに御意見等ございますか。すみません、じゃあ2番目の真ん中の。

○参加者 須賀川に住んでおります材枓と申します。

今日の資料の中で全体的な論調というのは、先ほど来話があるように、この資料もそうですけれども、「安全ですよ」という論調で全体が流れていますよね。そういう意味では果たしてこの現状が安全のほうに動いているんだというふうな、本当にそういう認識なのかということをお聞きしたいところが一つあります。時間の関係もあるでしょうから、全部まとめて言います。

それと先ほどこの原発の問題もありましたけれども、私もF1に行ってみりました。これはおもしろい現象があつて、F1の駐車場のところでは低くなっているんです。周りのところは高いんです。ということは、F1の一般の人たちが入る敷地のところだけは低くなつていて、しかもそこからちょっと先の部分に行かさないという、そういう意味では情報を操作しているんじゃないかとすら思えるような対応が見られた。しかもそれを使っての説明になっているんじゃないかというのが、この全体の説明の流れということが少し不自然さを感じるところです。

さらに、F1の現状をどういうふうに見るかです。もう完全にどこかの首相が言ったように、アンダーコントロールというふうな形なのかどうなのか、本当にそんなような認識がゆえに、半減期の進んだ今までのCsだけを対応した見方にしかなくなっていないんじゃないかというふうな、そんな感じがします。

それと、これ規制庁なり私たちはよく東電とか国とかと、さまざま言いますが、組織によっていろいろちょっと違うんだろうというふうには思いますけれども、ただ思うのは国であることが、国なり東電の責任というふうな中の全体として捉えさせていただくと、言ってみれば人を殴った人が、「あんたは大丈夫だ、けがしていないから」といって治療は赤チン塗っておけばいいよぐらいの、そんな、「これで治療終わりね」というふうな、そんな態度にも見えるわけです。それは判断する人が違うんでしょうと言いたいんです。殴った人が判断するのではなくて、殴られた人がまだちょっと具合が悪いんだというんならば、その人の判断に基づいて考えていくべきだろうというふうに、こう思います。それが全く逆転した形で進められようとしているということが、大変気になるところです。そ

ういう意味では住民アンケートをとっているのか、とっていないのかわかりませんが、そういうふうなことは最低やりながら、住民の意向ということを第一に考えての判断で、判断する人が住民が第一に判断をする、そういうふうな視点で考えていくべきだろうというふうに考えております。途中の質問、答えられるやつがあったらお願いしたいと思っております。

○南山総括調整官 ありがとうございます。住民アンケートということもございましたが、そのように安全だという説明なのかということ、こちら辺、いかがですか。

○武山監視情報課長 福島第一原発事故が起きたとき、そのときに放射性物質が大量に降り注いだわけですが、今現状はそのときに比べたら安全側に来ているのではないかと、というふうに思っています。

ただ、おっしゃるとおり作業、これから進展をしていくわけですが、これもなかなかきちんとしたものがないんですけれども、そのときに三つの原子炉がメルトダウンして相当な放射性物質が放出されているわけですし、今それをこれから廃炉作業をするわけですが、それと同じぐらいの規模のものが起きるかということ、そこまでは起きづらいと思っています。いや、ただ、全く放射性物質が出ないかということ、そういうわけじゃないと思っています。

(「同じ状態が続くんですよ。それが全く安全な状態だという認識」と叫ぶ者あり)

○武山監視情報課長 いや、安全な状態と言っているわけではなくて、ただ、放射性物質はまだまだそこにあるわけですから、きちんとしなきゃいけないということは、それはもう当然のことだと思っていますけども、今そういうふうな感じを考えていますけど。

○南山総括調整官 恐縮でございます。先ほどから挙げている3番目の一番左の方。

どうぞ。

○参加者 市内に住んでおまして、小学校の教員をしております件といたします。

学校子どもの視点から、結論から言えばモニタリングポストは絶対撤去をしてほしいと思います。

理由は二つあります。昨年、私は6年生と道徳の授業で福島から避難していった子どもたちが横浜とか新潟でいじめに遭って、その子は乗り越えたという題材をテーマに授業しました。そうしたら小学校6年生が、3.11のことを覚えているかいと言ったら、「え、全然知らないですよ」とか「わかるわけじゃないですか、幼稚園だったんだから」という声が聞こえました。福島の子ほど、かえって3.11の風化が進んでいるという現象がある

かもしれないんです。だから可視化するというツールとして、モニタリングポストはぜひ残してほしいと思います。

二つ目はきれいにしたところだけ安全だと言って、それでいいのかという問題があると思います。

私は小学校の教師30年ほどやってきて、外に連れ出すということを信条にやってきたんですが、校庭は除染が済んでいますけど、川でも山でも遊べないんです。つまり福島の子たちはこんなに自然いっぱいなのに、自然体験をやらせてあげられないという、そういう大人にとっては痛恨の極みのところにいるんだということなんです。私たち福島の大人は、今の子どもにこんな土地にしてしまったという負い目があると思うんです。

あるお母さんが私の目の前で、私がここに残るということを選択したことに対して、もしがんにならなくても、絶対言い訳はできない。何度謝っても償えないと、涙を流しました。だから、もしモニタリングポスト減らすんだったら、川とか山に持って行って、安全で遊べる場所がもっとあるよというふうにすべきじゃないですか。一番課長さんのお話を聞いて私が思うのは、低くて安定しているからというところが非常に私たち福島の大人にとって、低くて安定しているし、費用対効果でもっと安くて済むんだから撤去していいんじゃないかと言われているように思うんです。

そうじゃなくて、そういう緩くしていいじゃないですかと福島の大人にとっては、ずっと子どもにとって自然体験をさせてあげられない自然がずっと続いているんだから、もっとそれをよくする方向に行くようなところで活用しない限り、低くて安定しているから、それからもっと安くて済むから撤去してもいいんじゃないかというんじゃないかと、そこを了解してもらいたいというのが、了解できないと思うんです。

だから福島の子どもたちにもっと川とか山で遊べるようなところまで行きましょうと提案のところでもモニタリングポストをどうするかという、そういう議論をぜひ展開していただきたいと思います。

以上です。

○南山総括調整官 ありがとうございます。なかなか難しいところだと思いますけど、ポストを川とか山へ持っていか、そういった観点で、よりよく活用するという観点ですね。そういう提案です。

○武山監視情報課長 ポスト、設置する場所はどうしても電源の関係とか太陽電池で動いているわけですが、そういうところもあって、また下を設置するに当たって工事し

なきやいけないとか、いろいろ制約はあるので、なかなか難しいところも多分あるかもしれません。

ただ、もう一つは放射線のそこの状況、いろいろ確認をするところというのは多分多々あると思うんですけども、そういうところはサーベイメーターを活用するというのも一つの考え方だと思います。そういうものでここら辺はどうなのかということも測ってみて、高いかどうかというのを確認していくとかいうことも、どうしてもそういうことも必要なのかなというふうには思います。ただ、御意見としては承りました。

○南山総括調整官 活用策については御意見。

すみません、こちらにも回っていきますけど、3番目の黒い背広の方。

○参加者 須賀川に住んでおりますワダと申します。

今回このリアルタイム線量測定システムの配置の見直しということで、ただいま御説明をお聞きしましたけども、もう一度確認させていただきたいんですが、今日議題となっていますリアルタイム線量測定システムと今後維持していくであろうという御説明の可搬型モニタリングポスト、この役割が違うという、先ほど御説明がありました。リアルタイムのほうが地表のCs、可搬型のほうが空気中の線量とか、そういうお言葉が出てきました。こちらの可搬型のほうが緊急事態にも使えるということで、すみません再度になってしまうんですけども、この二つの違いをもう一度詳しく教えていただけますか。

また、あと私の立場としては、リアルタイムのほうも残してほしいという立場であります。正しく怖がるためには、安全であるなら安全であるという、そういう数字的なものが欲しいと思いますので、残してほしいという立場でありますけれども、再度この二つの違いについてお教えいただきたいと思います。

○南山総括調整官 ありがとうございます。

それでは、じゃあ河村さんのほうからいただけますか。

○河村上席専門官 それでは、リアモニのほうは、先ほど課長のほうから説明があったんですけども、あの7年前の事故があつて、放射性物質が環境中にたくさん放出されました。地表面に今はもうCs137がほとんどになってしまいましたけど、当時そういった放射性物質にかなり感受性が高い子どもの被ばく線量といえますか、子どもが集まる場所の空間線量を測りましょうという意味でつけられたのが、今日議題になっているリアモニといったものでございます。

一方で、可搬型モニタリングポストのほうは、そういった子どもが集まる場所というこ

とに限定をしないで、これは須賀川市であれば5kmメッシュごとに1台置きますということで、すべからく子どもが集まっている場所じゃなくて、市内全域をカバーするために設置をしたものが、可搬型モニタリングポストというものでございます。なので、もともと可搬型モニタリングポストのほうは、中長期的に設置をするという目的も含めて設置をされたものでございますので、今後1Fで何かまた事故といいますか、放射性物質等が放出されたときには、5kmメッシュごと、市内全域をカバーするように設置されたモニタリングポストのほうで、そういった対応もできるといったところを想定して設置しましたというものでございます。そんなところでよろしいですか。

○南山総括調整官 よろしいですか。

ほかに。こちらのほうで、2番目の女性の方。どうぞお座りになってください。

○参加者 私は市内千日堂に住むガイと申します。

私は命を生み出す女性としてお話ししたいと思います。もちろん、モニタリングポストは継続していただきたい。そして、それは今まで何人もの方がおっしゃいましたが、現在の子どもたちと、それから将来の子どもたちの健康と未来について責任を負う。日本国憲法二十五条には生存権、「健康で文化的な生活を保障する」と書いてあります。だから、本当にこれを実行していくためには、福島はとんでもない事故に遭ってしまいました。それを本当に大人の私たちが実行していかない限りは、未来はありません。

私は科学的なことはいまひとつわかりませんが、撤去されたらば不安なお母さんたちはたくさんいます。私が所属しているところでは赤ちゃん、乳児、小学生、中学生がいるお母さんたちが40人ぐらいいるんです。そうすると、そのお母さんたちの姿なりお話しなり聞いていると、将来の健康が一番心配、そういうことから考えたときに、一番大事なことを国として規制庁の皆さんが、この規制庁をつくる時に二度と起こさないために、もちろんこれをつくったということをおっしゃいましたが、起こっちゃったことについて今後も責任持ってやっていく。そして、福島に対して規制庁の方たちがそのことをやっていったらば、全国にそれが広がる、その誇らしい仕事をぜひ私はお願いしたいと思います。よろしく申し上げます。

○南山総括調整官 ありがとうございます。よろしいですか。

じゃあ、3番目の方。

○参加者 ヤマガタと申します。

○南山総括調整官 お座りになってください。

○参加者 私は翠ヶ丘公園、さっき話に出た公園を散歩して歩くと、一番線量が低いところに立てられているモニタリングポストを見て、ああ今日は雨だからちょっと高いな、0.003ぐらい、0.002ぐらいですか、高いなとか思いながら、でも、あの爆発したときに0.23、この数字が私の頭には残っていて、それよりも低いから安心だなというふうに思って毎日生活しているんです。だから、私たちにとっては目に見えない、においもかげないものに対して、じゃあ自分でどうやって納得させるかといったときに、すごくこのモニタリングポストのあの数字というのは、本当かなというところもあるんですけども、一応安心材料の一つになっているということ、この被ばくした福島県の全県の人たちがそう思っているって。

この被ばくしたことによって、私たちここに住んでいる福島県の人たちは、もう自分の人生が全て狂ってしまっているところを、まだまだそこからは回復なんかできていないんです。そういうことを一人ひとりの人生のドラマ、悲しいドラマなんですけれども、その辺のところを拾っていただいて、それに対策する対応というか、そういうことであってほしいと非常に願っています。

そして、今日の資料を見ると、なんでこの平均空間線量とか、平均何とかという、なんで平均が必要なのかなと私は思いました。なぜならば、私たちにとっては自分の住んでいるこの家の線量がどうかと、だからポストが多いと言いますが、私は1軒1軒につけてほしいと思うぐらいです。だから多い、少ないの問題じゃなくて、私たちが被ばくした、そこから立ち上がらなくちゃいけない、必死で本当に自分にどう納得させて生きていくかということによってようやく生きているような状況なんです。だから、その辺のところも忘れないでほしいんです。数字は確かに下がったと思いますよ、7年もたっているんですから。だけど、あのときのまま、それ以上の深い悲しみの中で、私たちは生きているということなんです。その辺のところを本当にわかってほしいなと思います。

だから、モニタリングポストは増やせばいいですけど、減らせなんていう話は、私たち県民の胸を逆なでします、失礼ですが。だから、そういうことは言わないでください。

○南山総括調整官 ありがとうございます。

1点その中ですみません、平均という話が出ました。そこら辺は何かコメントありますか。特になければ。

○武山監視情報課長 いえ、特に今は。

○南山総括調整官 すみません、それでは、真ん中の列の2番目の方。

○参加者 大久保のたづと申します。

あまり時間がないと思いますので、意見というよりは少し御質問という形で3点ほどさせてください。

一つは、須賀川市内で108カ所のモニタリングポストがあるということですが、これは除染済みのところと、除染していないところと、どういうふうに配置されているのか、その配置の状況を教えてください。もう除染していないところ、特に水が集まるようなところは除染したところの恐らく数倍から10倍以上の強度があると、私は経験で知っています。

それから二つ目。23日だったですか、河北新報だったと思います。その後民放でも報道されたんですけども、第一原発の汚染水タンクです。この中でトリチウム以外にヨウ素の109、ルテニウム106とか、こういうものがいわゆる基準値を超えて測られて出ていたということが報道されました。このことについて、それまで全然公表されていなかったんですけど、規制庁はこのことを把握しておられたのかどうか、それを公表しなくてホームページの中、細かいデータを見ると全部書いてあるということのようですけども、これは私らはトリチウムがあるというのは知っていたけど、それ以外のやつ全部取れているんだというふうに思っていたんですが、これが事実かどうかということと、公表しなかった理由についてお伺いします。

それから、今、原発の廃炉にあと40年ぐらいかかるだろうと、どれぐらいかかるかよくわかりませんが、その中で差し迫った地震の危険ということで、千島列島のところでのマグニチュード8クラスの地震で、それに伴って10mを超える津波が予測をされている。それから東日本大震災のときの地震のときに、まだ壊れ残っているということで、日本海溝のアウトライズ、ここでマグニチュード8ぐらいのあれがあるという、そういうふうに言われています。こういう問題について規制庁のほうではどういうふうに評価をしているのか、そのことについてお伺いしたい。

それからちょっとすみません、三つと言ったんですが、もう一つです。放射線量の状況というグラフ、6ページです。ここで青く染められているところがあります。これが平均の自然放射能の強度だというふうにおっしゃいました。自然放射能の強度ということでいいです。先ほどここで見ると0.115ぐらいの数字で線を引かれていると思います。ただし、これは恐らくさっき言われたところによりますと、日本で一番高いと言われているところの数字がこれに表示されている。私も県内の自然放射能大分測ったことがありまして、高

いところは恐らく0.8 μ Svぐらい、低いところは0.1 μ Svぐらいです。須賀川でも東側に行けば0.7とか0.8ぐらいのところはありますけれども、大体ここら辺から西側のほうは0.2ぐらいだったんです、昔は。それでここに1.15のところを引いてあるという、この理由は何ですか。

○南山総括調整官 ありがとうございます。4点ほどありました。まず配置について除染しているところと、していないところの配置の状況というのは把握していますかということなんですけど。

○武山監視情報課長 普通一般的に設置をするときに、ある程度整地しないと設置できないので、そういう意味からすると、その部分というのは多分整地されていることによって、除染じゃないですけど、そういう形にはなっているのかなと思いますけども。そういうわけじゃなくて。

○南山総括調整官 すみません、その後、市なり国なりが除染したかどうかという、その場所、配置などで、市のほうでわかりますれば。

○須賀川市 環境課のコウと申します。

設置場所については小中学校、幼稚園、保育所、それから集会所並びに一部公園等に設置されていますが、いずれも除染の作業を含めて、設置場所を含めて周辺はほぼ、見た限りでは全部除染の作業は行っております。

○南山総括調整官 ありがとうございます。それから23日の新聞報道等で、処理水の中にトリチウム以外の核種が含まれていると。そこら辺のところ把握していたのか、公表されていたのか、公表されていないとするのならはどうするか、そこら辺のところでございますが。

○武山監視情報課長 これは私どもの部署ではなくて、福島第一原子力発電所事故対策室というのがまた別にあって、そこでやっているんですけども、私が見ている限りでは、この汚染水タンクの中の水というのはトリチウムだけじゃなくて、いろんな核種というものについては、まだやっぱりヨウ素129、そういったものがあるというのは、私自身は知っていましたが、我々のほうで、今、福島第一に関しては、特定原子力施設監視評価検討会という会議があって、これはいろいろな有識者の方が来たりとかしてやる会議で、いわゆる福島第一原発の廃炉作業、そういったものについてのいろんな安全面での検討といえますか、そういったことをやっているところなんですけれども、そこではそういうタンクの中にどういいう水が入っているのかみたいな資料がオープンになっています。

我々のほうでトリチウム水、トリチウム水という言い方は、たしかあまりしていないと思うんです。これは恐らく経済産業省のほうでこれからまた公聴会がたしかあるというふうに聞いていますけれども、そこでトリチウム水という言い方を多分されているんだと思うんですけれども、我々はそういうことは言っていないで、例えば処理済水とか、そういうふうに言っているのか。たしかいわゆるトリチウムだけじゃなくて、核種いろんなのがあるということは、我々としても把握をしているし、今言ったような会議でオープンな場で会議をして、その資料もオープンにしていますので、という状況になっているというふうに私は認識していますが。

○南山総括調整官 その検討会の資料、それから会議の様式も原子力規制委員会のホームページで出ておりますので、ちょっと今日どこの場でどういう資料が出たかというところまでは押さえられないんですけれども、それから地震の危険性評価、こちら辺のところも発電所の1Fの監視検討会のところで、リスクについての大きさ等について評価しているという状況でございます。

それから、6ページの青い部分、今、正面にも出されましたけれども、このところもう一度説明お願いできますか。

○武山監視情報課長 青いところは、過去事故以前の17年間、いわゆる1993年4月から2010年3月までという、その間なんですけれども、その間の測定値の1日の平均値の範囲ということでございまして、最大が山口県の0.115、これ0.115という数字をたたき出したのが1995年5月14日ですけれども、その日の平均ということです。当然1日ですから、朝から晩までの平均なんですけれども、というのが0.115という数字がありましたということで、それを一応この青い線の一番上に引っ張ってきていますということで、全国レベルということ、全国全体日本では、そういう範囲に入っていますよということで一応お示しをしたということでございます。

○南山総括調整官 よろしいですか。ちょっとお待ちください。

○参加者 原子力規制委員会は本当は規制をする、それで住民サイド、国民サイドに立って安全を保障するという、そういう立場、本来そういうはずなんだと思うんです。恐らくここにいらっしゃる皆さんもそういう立場で仕事を基本的にされてはいるというふうには思うんですけれども、今日の資料や今の話を聞いていても、非常に不信感を持たざるを得ない対応になっているということは言わざるを得ないと思うんです。

私がお尋ねしているのは、規制委員会でも除染をしたところとそうじゃないところでは

全然放射能強度が違っているというのは当然みんなわかっているはずなんです。それがところがモニタリングポストは全部、除染が終わったところしかやっていないという、こういうことは知っていながら、そういうことは一切言わないんですよね。それで平均値でこうだ、これではみんな我々誤解したいわけじゃなくて、誤解するように誘導されている。先ほどのガス状で敷地外に出る放射線強度の話がありました。あれはあくまでもガス状として出てくるんであって、境界のところにある、そこで測定される全ての放射能ではないよ、これは確かに間違っ言っはいいないと思っんです。ただ、我々対して誤解を与える、そういう流れを話していると思っます。

それから、先ほど0.115というの、一番高く測定された山口県の話だ。ここは福島です。福島でやるのに、日本で一番高いところの数字を持ってきて、現在それよりも下っていますから安全ですという言い方はやめてほしい。そうじゃなくて、もし出すのなら、福島で事前に測ったのがあるんだしたら、それを出すべきなんです。

そういう点で、規制委員会の先ほどから最初にどなたかが言われたようすけども、本当に不安を持っている住民の立場でやるのか、そうじゃなくて数字を使って安心をさせるような立場に立っているのか、こういう立場によって一番損するのは実は規制委員会であり、政府であり、そういうことなんだと思っんです。これはやればやるほど不信感を持たざるを得ない。この裏にまた何かあるんじゃないみたいな、そういうふうに思われるのはあなた方だっ心外だと思っんです。本当に我々同うして向き合うときには、我々の立場に立って本当にお互いがわかり合えるような、そういうデータを出し方をしてほしい。

以上です。

○南山総括調整官 ありがとうございます。データの出し方につきましても、引き続き検討させていただきます。ありがとうございます。

ちょっとお待ちください。よろしいですね。じゃあ、どうぞ。

○参加者 ヤギヌです。よろしくお願っします。

可搬型のモニタリングポストを残すことで、万が一、今後事故が起きた場合もそれで大丈夫、十分対応できるというお話だったんですけども、ほかの説明会で自分勝手に確認をしないで自分勝手に逃げないでという説明をされているのを聞いて、非常にショックを受けてびっくりしたんですけども、具体的にじゃあ避難マニュアルというの、どのようにできているのかというのを教えていただきたいのと、あとどうしても事故を体験した、実際にその場にいた者としては、与えられた情報はとても信じられないというのを、先ほ

どから皆さんおっしゃっている方多いですけども、全く信じられない状態なんです。そういう状態の中で自分勝手に判断するなど。じゃあ、何を信じたらいいんでしょうねということをお伺いしたいんですけど。

○南山総括調整官 すみません、ありがとうございます。避難マニュアルというのは防災上で定められた指針とか、計画とか、そういったたぐいということによろしいですか。

○参加者 今のお話の中に限っては、そういった万が一また事故が起きた場合に自分で判断するな、勝手に逃げるなということは、国なり規制庁さんのほうから指示が出るということだと思っんです。

○南山総括調整官 防災上のそういった書き物として、どうなっているのかというところをお聞きになりたいと。

○参加者 そうですね。

○南山総括調整官 指針等々でどういうふう書いてあるのかと。原子力規制委員会は防災指針というのをつくっておりますけれども、そこら辺のところを鈴木さん、指針の話になりますけれども。

○鈴木専門官 私、福島にあります原子力災害現地対策本部に常駐しております鈴木と申します。

今のお話ですが、福島の事故以降、原子力災害対策指針、あと地域防災計画の中で避難行動、あるいは情報連絡網ということは整備されております。現状お話しいたしますと、まず福島第一原子力発電所で異常があった場合には、当然福島の第一原子力規制事務所、その職員が24時間365日常駐しておりますので、そちらのほうから情報が入ります。それを現地対策本部のほうで受けまして、福島県、さらには実働組織、警察署、自衛隊、海上保安庁、そちらのほうと連携を図りまして、モニタリングポスト等に異常があれば、その地域に連絡をして、住民の方が安全に行動できるような指示をすることになってございます。

もちろん、これについては、国の原子力規制庁の本庁にございます緊急時対策センター、そちらのほうにも連絡が行きますし、そこからは官邸のほうにも情報が入ることになっている。そこは福島事故の反省を踏まえまして、連絡体制、あるいは実働体制についても、現状整備されていると、そういう御理解をいただければと、そういうふうに思っております。

○南山総括調整官 それで勝手に逃げるなという話は、どういう話だったのかはちょっと

つまびらかにできない、わかりませんが、国として正確な情報をきちんと市町村なりから行くように、これ福島第一事故のときに全然できなかったという、この反省に基づいて、情報をきちんと皆さん方にお伝えするという点について、まず一生懸命やっていますということ、そこまでお話があったかと思えます。

その上でやはり行政としては、きちんとこういう形で逃げていただくというようなことも含めて御協力いただきたいと、そういう意味では気象の警報の指示とか、そういったたぐいと同様に、災害時の行動としては、していただきたいということでございます。だから、これが全ての皆さんに言うことを聞け、命令だということとはちょっと違うと御理解いただければと思いますが、いずれにしても、私どもも正確な情報をお伝えし、きちんと判断できるような形で日ごろから努力はしていきたいと思っておりますので、またそういった意味での御意見等いただければと思いますが、よろしく願いいたします。

それで時間がそろそろなものですから。

○参加者 須賀川市民なので、今、規制庁からの国の縦並びはわかったんですけど、須賀川市民ということは、じゃあ須賀川市から避難指示が出るということなんですよ。

○南山総括調整官 そういう意味では、必要な場合にはそういった情報によって避難していただくということがあり得ますけども。

ただ、今、申し上げていたのは、もっとリスクの高いところに住んでいらっしゃる方、すなわち浜通りの近辺の方、これが中心になりますということで御理解いただければと思います。今の制度としては、ですから……。

○参加者 それはちょっと。

○南山総括調整官 制度としてはそうなっておりますし、何か危険な情報が入ったら、それはきちんとしたルートでお伝えするようにいたしますし、皆さん方はもっと、だから身近なところからきちんとした情報が欲しいということであれば、そういう御意見といったことも承っておきたいと思っております。

○参加者 せっかく規制庁の方いらしていらっしゃるのでも、そちらのお話を聞けるのもうれしいんですけども、こうなってくると、じゃあ須賀川市の具体的な避難マニュアルはどうなっているんだろうというのは、すごく、今、気にかかる場所なんですけど。

○南山総括調整官 もちろん、それは、ちょっと時間もあって、この場はそういった形でまたそういった御意見がありましたということは、須賀川市の市役所の方も認識していますし、我々も記録としてきちんと残しますので、この場はそういった形で了解していただ

きたいというふうに思います。恐縮でございます。最後になりますが、一番後ろの方。

○参加者 ㊦と申します。

今日のこの規制庁の説明聞いていると、とにかく原発はもうおさまっているんだから、事故の影響はないんだから、安心してモニタリングポストも減らしてというような流れできて、全く納得いかないんだけど、例えば資料の8ページで、原発敷地境界で年間の1万分の5mSvとありますよね。この資料のほかのページの資料、全部 μ Svなんだけど、なぜここだけmになるのか。悪意に取れば、小さい数字だというふうに示したいのかなと思っています。そして、これ年間なんですよ。1時間当たりじゃなくて年間0.5 μ Svなんだけど、これ間違いないですか。

○南山総括調整官 それは間違いございません。それで被ばく線量という、ここに書いてございますけど、被ばく線量ですので、これは例えばこういうところで一般人の方の被ばく線量、年間何mSvという単位で、基本的にカウントしたことで整合させたという趣旨でございますので、そこら辺、御理解いただければと思います。

○参加者 mと μ と変えてあるのは、何か意味があるんですか。

○南山総括調整官 μ Sv/hというのが、これは空間線量の。

○参加者 わかるんですけど、これ μ Svにすれば0.5ですよ。

○南山総括調整官 そうです。

○参加者 だから、単位を変えて、少なく見せようかなと思ったんですけど。

○南山総括調整官 いえ、決してそうではありませんので。あくまで個人の被ばく線量、年間何mSvというのを基準に考えていますので、それに対しての数字がこれですよということ。その他意はございませんので。

○参加者 それで、第一原発の現状と簡単に2項目になっているんだけど、私たちは地震のたびにまた何かあるんじゃないかと震えている。地震のたびに何かあるんじゃないかと震えているわけよ、毎回。だから、こういう形でだから安心なさいというのは、ちょっと納得いかないというので、それはもっと何となくで申し訳ないんだけど、だから何が起こるかわからないんです。地震が活動期で。だから、こういう状況の中でモニタリングポストを減らすというのは、全然納得いかないということです。すみません、最後になって。

○南山総括調整官 いえ、とんでもないです。最後までありがとうございます。すみません、そうしましたらこれ本当になりますが、恐縮です。

○参加者 ありがとうございます。須賀川在住の㊦と申します。

何点かお願いがありまして、一つ目に一番気になっていたのが、住民説明会というのがすごく知らない住民の方が多いなというのをすごく感じていまして、私やっぱり今妊娠中ということもあって、すごくこういった問題が気になっているのもあるんですけども、どちらかというとお母さん世代がすごく心配されていると思うんですけども、お知り合いのお母さんたちに聞いても、この住民説明会の存在を知らない方ばかりでしたし、そこで私がこういうのがあるよと教えても、平日のこの時間帯、子どもがいたら参加することはまず無理だと思うんです。

なので、できれば平日の昼間・夜、土日の昼間・夜と分けて複数回行っていただくとか、あとは学校に例えばお知らせを配るとかも、きっとできますよね。こういうふうなことを考えていますという意見と、あとはできれば保護者の方にアンケートもとっていただけたら、もっとたくさんのお母さんたちの意見が聞けるのではないかなと思うので、ぜひそちらをお願いしたいなと思います。

○南山総括調整官 ありがとうございます。そこら辺、善処いたしたいと思うんですけど、このフリーダイヤルというものもこの資料にありますように、活用いただければというふうに思っております。それもよろしく願いいたします。

○参加者 そもそも多分住民説明会を知らない、撤去されるということすら知らないお母さんたちも、まだまだたくさんいるんです。先ほども先生のお話だったりとか、団体の方のお話にあったように、一番心配しているのは子どもを育てている最中のお母さんかなと、お母さん、お父さんとあとおじいちゃん、おばあちゃんと、大人はみんな心配していると思うんですけども、子どもたちの未来とか健康とか、そういったところを。それをやっぱりもっとみんなに知ってもらってからだと思うんです。

その上でアンケートに書けない方とか、ここにどうしても来れないという方は、フリーダイヤルを活用できると思うので、それもあわせて告知をもうちょっとしてほしいなと思ったのが1点と、あとは先ほどからお話に出ていますように小さな地震でも地震があったら、今でも震源地はどこだろうとまず最初に思います。浜通りであればやはり何かあったんじゃないのかなと心配になります。

それは須賀川は60km離れているから大丈夫とか先ほどもありましたけども、そういう問題じゃなくて、この地震だったりとか、原発事故を経験したらどうしてもその不安はぬぐえない、それはもう子ども・大人関係なくぬぐえないと思うので、本当に安全であり安心であるということが確実に確認とれるまでは、線量計は外さないでいただきたいなと思い

ます。

○南山総括調整官 どうもありがとうございました。司会の不手際もございまして、本当に時間ぎりぎりになってしまいました。

皆様の御協力でこの住民説明会、運営させていただきました。また、こういった機会も欲しいという意見もございましたので、そこら辺についてはまた検討させていただきますが、いずれにしても地下駐車場が9時に閉まるという絶対的な条件もありますので、そこら辺も含めまして皆様方には大変御都合いただきまして、この場に御参加いただきましたことを重ねて御礼申し上げまして、この場を閉じたいと思います。どうもありがとうございました。